

旭日小綬章伝達式のご挨拶

本日の式典を開催してくださる日本政府、及び、総領事館の皆様に、厚く御礼申し上げます。また皆様には、お忙しい中ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

この度、私は日本政府から勲章をいただきまして、大変喜んでおります。また、幸せでいっぱいです。この喜びと幸せを、ぜひ総領事館の皆様にお願いをし、日本の政府、これまでお世話になった日本の皆様、友人たちに、感謝の意を伝えていただきたく存じます。

私は1959年4月に、日本の文部科学省の国費留学生として渡日しました。大阪外国語大学で日本語予備教育を受けた後、京都大学に入学しました。卒業後、東京大学大学院に進学し、理学修士を取得しました。その後、海外技術者研修協会AOTS から奨学金をいただき、埼玉県のおがわ町や静岡県の様々な所で、製紙・パルプの研修をいたしました。

京都大学に在籍していた頃の私は、口数も少なく、内向的で、実に消極的な学生でした。その後、東京へ行き、民間の学生寮で1年間、過ごしておりました。そこで、ご縁があり、私の人生ががらりと変わったのです。その寮というのが、アジア学生文化協会、及びAOTSの創設者、今は亡き穂積五一先生が開設した寮でございます。新星学寮と言ひ、村山元首相や、杉浦元外務副大臣といった偉大な先輩を輩出した寮です。この寮生活は、私の日本の見方を変えるばかりか、性格さえも変えたのです。積極的になった私は、社会問題や社会活動にも夢中になっていきました。当時、東京に私費留学をするベトナム人がいましたが、語学勉強がうまくいかず、遊んでしまう学生がたくさんいました。そこで、私は新宿にある日本語学校の空き教室をお借りして、夜間、ベトナム人に漢字や大学受験の勉強を教えるようになりました。次第に彼らとの関係が親しくなり、1967年に、東遊学舎という学生寮を開設いたしました。この寮は、私の人生を変えた新星学寮をモデルにしたものです。私は寮長として、先生として、時には、学生たちの兄として、一緒に住み、私費留学生を支えました。このような活動をしている時も、新星学寮の友人や日本人の友人、そしてベトナム人の友人は、いつも私を助けてくれました。そこで、私たちは兄弟奨学金を設立し、ベトナム戦争の被害者や経済的に恵まれない子供たちのために奨学金を支給いたしました。

1974年に帰国し、私は南ベトナム政府官僚として勤めました。その後、ヴァンハイニン仏教大学の総務兼財務部長を勤めました。そこで、工学部を開設し、学部長にも就任いたしました。

1975年4月、サイゴン解放後、私は製紙会社で工場長を勤めました。サイゴン解放後は、外国からの輸入が止まってしまい、機械の部品を国内でまかなう必要があります。

した。そこで私は日本での経験と知恵を活かし、機械の部品を設計し生産することができました。うれしいことに、ベトナム全国から注文があり、至る所で、私は製紙の機械も設計しました。偶然、共産指導者の耳に入り、私はベトナムで最初の輸出加工責任者に任命されました。次第に政府との信頼関係が厚くなり、国に貢献したいという気持ちも強くなり、1991年に、ホーチミン市で初めての日本語学校を開校いたしました。それが、ドンズー日本語学校です。留学生プログラムを実施し、約2,200人の留学生を日本へ送りました。その中には帰国して、現在、日系企業に就職をしたり、起業したりしている約700人のドンズー卒業生がいます。留学生プログラム以外には、青葉奨学会、黄梅奨学会、ブンレン奨学会を設立いたしました。1991年から今日まで、毎年、経済的に恵まれない学生2,500人に奨学金を支給しております。また、日本の友人の力を借り、ベトナムの辺境地や貧困地域に小学校と中学校を19校、設立いたしました。今後は、ドンズー卒業生OBと「ドンズーフAMILY」という組織のもとで、社会貢献に努める次第です。

以上のように、60年にわたり、取り組んで参りました。おかげさまで、多くのことが実りました。この実りは、決して私だけの知恵と力だけでなく、多くの恩人や友人たちの助けがあったからこそ、実ったものです。日本の皆様、お世話になった先生方、恩人、そして友人に心より感謝いたします。皆様のおかげで、本日、私は栄誉ある勲章をいただくことができました。そして、改めて、この喜びと感謝を、穂積先生にお伝えしたいと思います。穂積先生には、私だけでなく、大変多くのベトナム人がお世話になりました。私の人生を変えた新星学寮は、私だけの出発点ではなく、多くのベトナム人の出発点となりました。穂積先生をはじめ、AOTSの皆様、新星学寮でお世話になった皆様、恩人たちには、感謝の念に堪えません。そして、日本へ留学生を送り、学生達の保証人になってくださった方々にも厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、今日まで大変多くの方々の温かいご支援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。今後とも、皆様には、どうか一層のお力添えのほど、心よりお願い申し上げます、私のご挨拶といたします。

誠に、ありがとうございました。

2021年 11月 20日

NGUYEN DUC HOE